

H28海外臨床実習

国・地域	オーストラリア
------	---------

番号	報告者	渡航先機関での 受入期間	受入機関
1	N. Y	H29/2/13-H29/3/3	シドニー大学

平成 28 年度 岸本国際交流奨学金による 海外活動実施報告書

医学部医学科 5 回生 N. Y

1 概要

【実習受け入れ先】 Central Clinical School The University of Sydney (オーストラリア)

【実習機関】 Royal Prince Alfred Hospital

【診療科】 Melanoma & Surgical Oncology

【実習日時】 2017/02/13 – 2017/03/03 (3 週間)

英語圏の病院で臨床実習を経験して医学と英語の両方を一度に勉強したいと思ったこと、診療科を自分で選択したかったこと、治安が良いこと、などの理由からオーストラリアのシドニー大学を選んだ。シドニー大学はいくつかの Medical School を持っているが、その中から臨床・研究ともに最大級の設備を備えた Royal Prince Alfred Hospital を教育指定病院に持つ Central Clinical School を選んだ。診療科は、腫瘍に対する外科的アプローチを幅広く勉強できるだけでなく、メラノーマというオーストラリアならではの分野についても勉強できることにとても魅力的に感じたため、Melanoma & Surgical Oncology を選択することにした。

2 実習

集合時間は日によって異なったが、基本的に 7-8 時の間に病棟で Ward Round(病棟回診)が始まるのでそこから参加した。その後は以下の様なスケジュールで実習し、全ての業務が終わると解散となった。(詳細は別紙記載の通り。)

	午前 (9 時～)	午後 (12 時半～)
月	外来見学	手術見学
火	手術見学	手術見学 (学生講義)

水	外来見学	外来見学
木	手術見学	手術見学
金	休み	外来見学

実習中はシドニー大学の学生とずっと一緒に廻り、先生方にはシドニー大学の学生と同様に扱ってもらって色々ご指導賜った。一緒に回っていた学生がとても優しくて親切な方で、先生からの指示が分からず困っていると説明し直してくれたり、大学の講義に誘ってくれたり、他のシドニー大学の友達を紹介してくれたり、と非常にお世話になった。Melanoma チームは Professor(教授)2 人・Register(レジデント)2 人・Fellow(アメリカ人) 1 人・Internship(初期研修医) 1 人と先生の数も少なく、その分すぐに私が日本からの学生だと知ってもらえたので Teaching の機会も多く、毎日充実した実習生活を送ることが出来た。

2.1 外来見学

Royal Prince Alfred Hospital の外来で診てもらうためには GP(General Practitioner)から Professor 宛の紹介状をもらわなければならない。外来患者はまず Professor の下についている Register の先生の外来で一通りの問診を受けてから、改めて Professor の外来を受診する。Professor が治療方針の最終判断を行うため Professor は患者全員を診なければならないので非常に忙しく、私は基本的に Register の先生について見学していた。外来中は先生が患者に病気について説明するため非常に分かりやすくシンプルな英語で話す上、先生が私にマンツーマンで病歴から病態まで説明して下さるので勉強にもなり、私が日本から来た学生だと名乗ると患者さんが皆私に大変フレンドリーに話しかけてくれたので(オーストラリアの人は日本好きの方が本当にかつた)一番好きな実習だった。外来では局所麻酔下の簡単な手術もたくさん行うので助手として入れてもらい、縫った後の傷の処置をしたり包帯を巻いたり、最終的には数針ずつ縫わせてもらったり、と様々な処置を手伝うことが出来た。処置中は患者も局所麻酔なので意識があり、先生や看護師の方とずっと他愛のない話をしていたが、オーストラリア訛りがきつくて話題に全くついていけないことも多く、英会話の練習になった。

2.2 手術見学

日によって執刀医の Professor が違い、Melanoma チームだけでなく形成外科や消化器外科の患者も Melanoma & Surgical Oncology の手術に含まれるようで、3 週間の間には頭頸部から腹部、足背まで色々な手術を見学することができた。何度か清潔の状態です手術に入らせてもらったが、蛇口が手動だったり、アルコール消毒がなかったり、タオルがガウンと一緒に入っていて気づかなかつたり、と基本的には日本と同じ手洗いの動作の中に小さな違いがあつて興味深かつた。先生が毎回筋肉や血管や神経の名前や走行を術中に確認して下さるので、3 年前に勉強したきりの解剖学の知識を思い出す良い機会となつた。

3 実習以外の生活

実習初日の午前中に、同じ日から Electives を始める生徒を対象に簡単なオリエンテーションがあった。それをきっかけにベルギーからの医学生 2 人と仲良くなり、さらにはシドニー大学の別の Medical School で Electives をしている留学生の親睦会にもよく誘ってもらって、3 週間の間に世界中の色々な国から集まってきた医学部生と話すことができた。英語圏から来ている人は勿論のこと、そうでない人も皆一様に英語が流暢で、自分の国の医学部のことや将来のこと、友達の話、休みの日に何をしたいか等々、とにかく凄い勢いで話しつづけるので私は終始圧倒されっぱなしだったが、自分とは違った視点からの興味深い話が沢山聞けてとても面白かった。他の Electives の学生と一緒にご飯を食べたりパブに行ったり、シドニーの街をドライブしたことは良い思い出になった。

実習が早く終わった時や週末にはシドニーを観光してまわった。オペラハウスをはじめとする市街から、ボンダイビーチや世界遺産のコッカトゥー島、郊外のブルーマウンテンまで、ガイドブックに載っている所はおおよそ訪れた気がする。帰路の乗り継ぎのメルボルンでもペンギンパレードを見て癒されたり、市街の公園でのんびり森林浴をしたりと、最後までオーストラリアを満喫することができた。

4 実習の成果、今後の抱負

オーストラリアでは皮膚がんが死亡する人が年間 2000 人を超えており、皮膚がんが診断されて治療を開始する人は 75 万人以上にのぼる。紫外線が強いことや日焼けをする文化が定着しているオーストラリアは世界で最も皮膚がんの率が高い国の一つであり、皮膚がんの中で最も悪性とされるメラノーマだけで一つの独立した科が存在するという程である。1980 年代初旬には皮膚がん予防運動が始まっていたそうだが、実際外来を見学し患者と話してみても、皆皮膚がんに対する意識がとても高い印象を受けた。体にできるシミにとっても敏感であり、少しでもシミが大きくなれば皮膚がんを疑って GP のところに行くという習慣が定着しているようだった。私が実習中最もお世話になった Prof. Thompson と Prof. Saw の元には本当に沢山の患者が紹介されて来院しており、外来中ほとんどの患者の視診や触診をさせてもらったので大変勉強になったと感じている。

また、3 週間の実習は最初から最後まで英語漬けの毎日だった。シドニーには生まれがオーストラリアというアジア人が多く生活しているが、彼らと見た目では区別できないため、私も現地の学生と間違われることが度々あった。アジア人でも英語が話せるのは当たり前だと思われる環境で、何度も自分の英語力の限界を感じてもどかしい思いをしたが、臆せず人とコミュニケーションをとる度胸がついたと実感している。日本人が一人もいない状況は大変貴重な英語の練習の機会になった。

オーストラリアで会った先生や学生の中には海外から勉強に来ている人がたくさんいたし、オーストラリア人の中にも研修が終わったら/卒業したら外国へ、と話す人に少なからず出会った。海外研修に参加するまでは日本で医師として働く以外の選択肢を現実のものとして考えたことがなかった私にとって、彼らのグローバルな考え方はとても衝撃的だった。英語圏を行き来することは彼らの中では随分自然なことのように、'留学'という敷居の高さは感じられず、ただ自分が吸収したいと思うもののある所に'移動'してステップアップする、というだけのようにある。例えば、私が Melanoma チームでお世話になった Fellow の先生は、NY で一般外科の専門医のライセンスをとって何年か働いた後、Melanoma を専門にすべく夫を NY に残したまま生まれたばかりの子どもを連れてキャリアアップのためにシドニーに来たという女医さんだった。彼女の話聞いた時、同じ女性としてそのパワフルさに私は大変驚いたが、こんなに驚いているのはどうやら私だけのようで、それがまた新鮮だった。このようなグローバルで積極的かつ自由な感覚は、オーストラリアやアメリカのような多民族国家だけではなく韓国や中国、東南アジアなどから来ている人たちにも身につけているように感じられ、日本で仕事をする以外に考えが及んでいなかった私にとって、将来を考える上で選択肢の幅が広がったように思う。現状に満足して自分で選択肢を狭めてしまわないように、柔軟で広い視野を持ち続けていたい。

5 最後に

今回私は 3 週間シドニーで病院実習をする機会を頂きましたが、将来について考える 5 回生の今の時期にこのような貴重な経験をさせて下さった岸本忠三先生・岸本国際交流奨学基金関係者の方々、医学科教育センター和佐勝史先生、河盛段先生には大変感謝しております。また、Royal Prince Alfred Hospital では Prof. Thompson、Prof. Saw をはじめ多くの先生方にご指導賜り、本当にお世話になりました。様々な方のご尽力・ご支援のおかげで、有意義な実習を送ることが出来たと実感しております。本実習に関わって下さった全ての方々に厚く御礼申し上げます。

実習の準備

シドニー大学は大阪大学の提携校ではありませんが、直接シドニー大学に申し込んで正規の学生と同じように実習をすることができました。提携校への申し込みと手間はあまり変わりませんでしたので、もし興味があれば参考にしてみてください。

シドニー大学はいくつかの Medical School を持っており、それぞれで Elective の制度が設けられています。Elective とは、選択実習の期間を使い自分の大学の関連病院以外で臨床実習をしたいと希望する医学生を受け入れる制度のことです。シドニー大学だけでなく、世界中ほとんどの大学で Elective の制度は設けられています。海外の医学部は選択期間が丸 1 年あるという所も多いようで、シドニーに来ている Elective の学生のほとんどはここに 2 ヶ月以上いると言っていました。シドニーが終わってもまた別の国で実習する人が多く、教育制度の違いを痛烈に感じました。

申し込み～受け入れ承諾まで

7月の末に、オンライン上で申し込みに必要な書類のダウンロードができるようになりました。これを機に申し込みが開始となります。募集要項はその数か月前に更新され、予め準備しておく書類や申し込む際の注意点などを確認できます。<http://sydney.edu.au/medicine/central/electives/index.php>

シドニー大学での Electives は希望する医学生が多く、早い者勝ちで希望する期間や診療科が埋まってしまうと聞いていたので、開始と同時に申し込めるように事前に医学科教育センターの和佐先生にお願いして推薦書を用意して頂きました。申し込みには 2 段階あり、まず必要最低限の書類(①)を pdf 化して添付ファイルで担当者宛にメールしました。数日後に確認のメール、約 3 週間後に仮押さえのメールが届きました（仮押さえを保証する書類は郵送でも届きました）ので、指示される通りに必要な書類(②)を全て揃えて国際便で郵送しました。1 週間程度で受領確認のメールが来て、受け入れが正式に決定しました。

- ① Elective application form 一式…HP からダウンロード。希望する日時と診療科さえ書けば、NSW Health Form は不完全でも問題ない模様。

A letter of good standing from a senior Faculty member of your schoolと Written proof from your University that you are covered by insurance for public liability and medical indemnity while doing your elective in Australia…どちらも和佐先生に書いて頂きました。

IELTS のスコア…IELTS 6.5 以上が必要。TOEFL でも可。

- ② ①で揃えた書類（全て埋める）に加え、以下のものを準備しました。

NSW Vaccination Record Card…シドニー大学が指定した用紙を母子手帳と一緒に保健センターに持っていき、先生に書いて頂きました。オーストラリアの医療従事者に必須の dTpa ワクチンは日本未認可とのことだったので、梅田のトラベルクリニックで打ってもらいました。英文の健康診断の証明書は保健センターで発行して頂きました。

Criminal Record Check…オーストラリアの警察の HP 上で申請すると、約 3 週間後に国際便で豪州犯罪履歴証明書が郵送されてきました。申請には身元を証明できる書類をオンライン上で送信する必要があるため、パスポートと自分名義のクレジットカードと IELTS のスコアシートを使いました。

National Police Check…住民票のある都道府県警に行行って発行してもらいました。申請に必要な書類があるため(パスポート・受け入れ先からの申請要求書・住民票など)、事前に県警の HP を確認して用意しました。ちなみに日本の犯罪履歴証明書の発行には指定された理由(渡航先によって異なる)が必須だそうです。シドニー大学のある NSW 州に行く場合は‘公立保健施設立ち入り許可’という名目での発行となるそうです。申請の 2 週間後に再び県警に行行って受領しました。

Proof of Payment of Elective Fee…非提携校なので授業料が必要でした。

過去にシドニー大学での実習を経験した阪大生がおらず、情報が非常に少ないところからのスタートであったため、必要な書類を全て揃えるのには時間がかかりました。幸い Central Clinical School の Elective 担当の方は非常に対応が早く逐一連絡を下さったので、待つことに対するストレスをあまり感じずに済んだのが良かったです。第一希望の日程と診療科に行けるという旨の最終決定のメールを頂いた時はホッとしました。

宿泊施設

大学の夏季休暇中のみ開放しているというシドニー大学の学生寮に 1 週間入り、残りの 2 週間は病院近辺にある長期滞在者向けのビジネスホテルを選びました。どちらも病院から徒歩 5 分程度の好立地で、病院の周辺は学生街であると同時に病院職員もたくさん住んでいるため夜でも人通りが多く、コンビニやスーパーが近くにあり、カフェやレストランもたくさんあったので、不自由なく過ごすことができました。病院は Central 駅からバスで 15 分程のところにあるため(しかもバスの本数がとても多い)シドニー中心部へのアクセスも良く、気軽に市街へ出かけて帰ってくることも大変便利でした。

服装と持ち物

実習では日本と違ってケーシーや白衣、スクラブの着用はせず、オフィスカジュアルの格好に首から名札と聴診器を下げて貴重品かばんを持ち歩く、というスタイルで過ごしました。学生も医者も見た目は変わらず、女性はワンピースか膝丈くらいのスカートにシャツ、男性はネクタイ無しのスラックスとシャツ、の人が多かったです。手術着は更衣室に置いてあるスクラブを使うことができました。PHS などの支給は無く、連絡はすべてスマホのメッセー

ジのため iPhone は必須でした。病院内は eduroam の wifi が飛んでいるので、阪大の HP で手続きを踏んでいれば使用することが出来ます。他に、電子辞書とメモは常にかばんに入れて持ち歩いていました。オーストラリアはどこもお店で食べると値段が高く、病院内のレストランでも高かったです。その代わりに職員用の冷蔵庫とトースターとオーブンが病院の至る所にあつたので、昼はサンドイッチを作って持っていきました。

	朝	午前	午後
2017年2月11日 土		シドニー到着	
2月13日 月		9:00～ オリエンテーション	13:00～17:00 手術見学
2月14日 火	8:00～ 病棟回診	9:00～17:30 手術見学 (途中14:00～15:00 学生講義)	
2月15日 水	8:00～ 病棟回診	9:00～10:00 教授総回診 10:00～17:00 外来見学	
2月16日 木	7:00～ 病棟回診	8:00～18:00 手術見学	
2月17日 金	なし(午前中は先生が全員別病院で行われる会議に出席するため)		12:00～16:30 外来見学
2月20日 月	7:30～ 病棟回診	8:30～13:00 外来見学	13:00～16:00 手術見学
2月21日 火	8:00～ 病棟回診	なし(予定手術が全件延期になったため)	
2月22日 水	なし(入院患者が0人だったため)	10:00～16:30 外来見学	
2月23日 木	なし(入院患者が0人だったため)	8:00～12:30 手術見学	なし(2週間に1度は半日手術のため)
2月24日 金	なし	なし	12:00～17:00 外来見学
2月27日 月	8:00～ 病棟回診	8:30～13:00 外来見学	13:00～17:00 手術見学
2月28日 火	7:30～ 病棟回診	9:00～17:30 手術見学 (途中14:00～15:00 学生講義)	
3月1日 水	8:00～ 病棟回診	9:00～10:00 教授総回診 10:00～17:00 外来見学	
3月2日 木	8:15～ Teaching	8:00～18:00 手術見学	
3月3日 金	なし	10:30～ 病棟回診	12:00～17:00 外来見学
3月6日 月	シドニー出発	メルボルン到着	
3月8日 水		メルボルン出発	